

# 研究指導教員紹介

★各先生のお名前をクリックすると、業績ページへ遷移します。

## 栄養分野

### 井尻 吉信 (Yoshinobu Ijiri) 教授



#### ■研究指導内容

本研究室では、管理栄養士による栄養食事指導を無床診療所(クリニック)に普及させていくことを目的とした研究を行っています。具体的には、「各施設における患者実態・ニーズ調査」や「継続性がありかつ効果的な栄養食事指導方法の確立」を目指します。

■担当科目 臨床栄養管理学研究

### 鈴木 朋子 (Tomoko Suzuki) 教授



#### ■研究指導内容

食行動などの人々の健康行動は、日常生活のなかで習慣化されるので、疾病予防を促進するには、健康的な生活習慣をサポートする必要があります。本研究室では、健康支援のあり方について考え、健康教育やヘルスプロモーションについての研究を行います。

■担当科目 栄養教育学研究

### 木村 雅浩 (Masahiro Kimura) 教授



#### ■研究指導内容

特定保健用食品の累計許可品目数は1000件を超えている。このうち、令和2年度の累計許可品目における保健の用途として中性脂肪・体脂肪、コレステロール、血糖値の占める割合が45.5%である。当研究室では、このように注目されているコレステロールやトリグリセリドの血中濃度を低下させる食品成分についての研究を進めています。

■担当科目 栄養化学研究

### 三輪 孝士 (Takashi Miwa) 教授



#### ■研究指導内容

栄養をマネジメントすることは傷病者を栄養面から支援して回復に向かわせるだけでなく、ライフステージすべての人に対する一層の健康増進に栄養面から寄与することをコアとします。栄養状態および栄養摂取法の評価とこれが短・長期的にどのように影響するかを検証しています。

■担当科目 栄養マネジメント学研究

## 保健・医療分野

### 開道 貴信 (Takanobu Kaido) 教授



#### ■研究指導内容

基礎医学の先人による様々な偉大な研究業績は、現代社会において様々な恩恵を与えています。こうした研究はなぜどのように成し遂げられたのかを振り返ることは、研究者として研究を進めていく上で重要な知恵を得ることができます。また近年捏造や剽窃などの研究における不正行為への批判も叫ばれる中、研究倫理の重要性についても学んでいます。

■担当科目 基礎医学研究

## 食品分野

### 一條 知昭 (Tomoaki Ichijo) 准教授



#### ■研究指導内容

食品の安全性を確保するためには、食品中や食品製造環境などに存在する微生物について正しく理解し、適切に管理することが不可欠です。本研究室では食品を取り巻く環境中の微生物の全体像を把握し、そして対策へとつなげるため、分子微生物生態学的手法を積極的に取り入れながら研究を進めています。

■担当科目 食品衛生・微生物学研究

### 津川 尚子 (Naoko Tsugawa) 教授



#### ■研究指導内容

超高齢社会のわが国において加齢性疾患予防は重要な課題です。脂溶性ビタミンであるビタミンD・Kは加齢性疾患といえる骨粗鬆症の予防に役立つだけでなく、心血管疾患予防、がん細胞や神経細胞の増殖・分化、免疫に関与することがわかってきました。これらの機能を分子栄養学的、疫学的に研究し、栄養改善により加齢性疾患を予防することを目指します。

■担当科目 公衆衛生学研究

### 稲垣 秀一郎 (Shuichiro Inagaki) 准教授



#### ■研究指導内容

発酵食品は、製造に用いられる発酵微生物による影響を受けて大規模な成分変化が生じ、原材料にはない性質が付与されています。本研究室では、発酵食品の機能性に焦点をあて、発酵による成分変化と機能性の付与との関連性を解き明かすことを目的に研究を行っています。また、このような基礎的な研究成果から、機能性に着目した新たな発酵食品や機能性食品の開発を目指しています。

■担当科目 食品プロセス学研究

### 三善 陽子 (Youko Miyoshi) 教授



#### ■研究指導内容

発育の途上にある小児にとって、適切な栄養摂取が健全な成長発育に欠かせません。生活習慣病は決して成人のものだけでなく、食生活の乱れや環境の変化は、様々な小児疾患の原因となります。本研究室では、小児の健康状態を客観的に評価できる手法を開発し、栄養学的な観点から小児疾患の予防を目指した研究を行います。

■担当科目 臨床栄養発育学研究



※掲載している教員は、2022年度現在のものです。